



# 反応硬化形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材 ダイヤエポネE1液型

一液形反応硬化形エポキシエマルジョンを採用することで従来の2液形複層塗材REの1液化を実現し、作業効率のアップを図りました。

- 特長
- 反応硬化形エポキシエマルジョンを採用しており、従来の2液タイプと同様に優れた付着性を示します。
  - 一液形なので取扱が簡単で、性能のパラツキがありません。
  - エポキシエマルジョンの反応硬化により強靱で耐久性に優れた塗膜を形成します。

吹付け仕様

工程	材料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整		下地に付着している土砂、ほこり、油脂類及びレタンス、エフロは完全に除去し、含水率10%以下(pH10以下)に管理して下さい。豆板、欠け、不陸、目違いなどはダイヤセメントフィラー、またはセメンシヤス#2000等で平滑に補修して下さい。					
2	下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg 0.10~0.15kg/m <sup>2</sup> 100~150m <sup>2</sup> /缶	1	—	2時間以上	刷毛、エアレス 中毛ローラー	
3	主材吹き	ダイヤエポネE(1液型) 清水	20kg 1.3~1.5kg/m <sup>2</sup> 13~15m <sup>2</sup> /缶	1	—	24時間以上	タイルガン	
4	凸部処理		主材吹付後、20分以内にプラスチックローラーに塗料用シンナーをつけながら軽く押さえる。 ※凸部処理は押さえ模様の場合のみ行ないます					
5	上塗り	ダイヤパーマルウレタン 清水	16kg 0.5~2.0kg/m <sup>2</sup>	2	2時間以上	—	刷毛、エアレス 中毛ローラー	
5	上塗り	ダイヤスーパーセラミック A液 B液 清水	15kg 1kg 0~1.6kg/m <sup>2</sup>	2	2時間以上	—	刷毛、エアレス 中毛ローラー	

ゆず肌  
ローラー仕様

工程	材料	希釈割合	所要量	塗回数	乾燥時間		施工用具
					工程内	工程間	
1	下地調整		上記参照				
2	下塗り	ダイヤワイドシーラー 無希釈	15kg — 100~150m <sup>2</sup> /缶	1	—	2時間以上	刷毛、エアレス 中毛ローラー
3	主材塗り	ダイヤエポネE(1液型) 清水	20kg 0.8~1.2kg/m <sup>2</sup> 15~18m <sup>2</sup> /缶	1	—	24時間以上	多孔質ローラー
4	上塗り	ダイヤパーマルウレタン 清水	16kg 0.5~2.0kg/m <sup>2</sup>	2	2時間以上	—	刷毛、エアレス 中毛ローラー
4	上塗り	ダイヤスーパーセラミック A液 B液 清水	15kg 1kg 0~1.6kg/m <sup>2</sup>	2	2時間以上	—	刷毛、エアレス 中毛ローラー

適応下地

- コンクリート、モルタル面、P.C板、窯業系押出し成型板、ALC版などの各種ボード
- 施工・管理上の注意

【塗装面の調整(新設)】

- ①素地に付着している塵、汚れ、油脂類、レタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下(pH10以下)になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要で。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④P.Cパネル、現場打ちコンクリートの場合
  - 1)豆板、木コン、破損箇所、不陸などはセメンシヤス#2000、セメンシヤス#2500等の下地調整材を使用し、補修して平滑して下さい。
  - 2)表面が緻密でレタンス層がある場合は、レタンスを除去し、ダイヤガンコーシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。
- ⑤ALCパネルの場合  
ダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。

【塗装面の調整(新設・改修共通)】

- ①壁・防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十分点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめの塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整(改修)】

- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理(ケレン、清掃、高圧水洗浄)などを行って下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧水洗浄で除去して下さい。
- ④既存塗膜の劣化が著しい場合、また既存塗膜がセメント系の場合には、高圧水洗浄後にダイヤガンコーシーラーまたはダイヤワイドシーラーを塗布して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度95%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後、降雨、降雪の恐れがある時は(雨)養生をし

- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りすと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しやすくと取れませんので、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないよう注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと面が残りバリとなります。
- ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
- ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げてください。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因となります。
- ⑧施工後24時間以内降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に発疹場合があります。
- ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がり具合にならないよう確認して下さい。
- ⑩希釈する場合、希釈量を厳守して下さい。薄め過ぎるときれいに仕上ることがあります。特に濃色や下地の吸い込みが強い場合等は少なめに希釈して下さい。
- ⑪常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑫安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑬一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑭塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑮フックや無機系などの接着剤塗装処理されている下地については、付着性が十分に発現されないおそれがありますので、ご使用の場合は顧客の営業所へご相談下さい。
- ⑯可使時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑰使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置すると硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑱濃色や原色に近い色の場合、強くすると色が取れる場合があります。
- ⑲下地の吸込みムラにより色移りのムラが発生する場合があります。
- ⑳シーラーと上塗り塗料を混合するとゲル化する恐れがありますので、容器・刷毛・ローラーなどの共用は避けて下さい。

- ①上塗材を施工する場合は、下塗りの乾燥状態を確認して下さい。
  - ②ダイヤワイドシーラーはカチオン形塗料ですので、多種塗料との混合はできません。刷毛およびローラーも多種塗料と併用して使用しないで下さい。
  - ③ダイヤワイドシーラーに使用するだけ缶等はプラスチック容器を使用して下さい。金属類はサビが発生します。
- 【安全衛生上の注意】
- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防護マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
  - ②取扱い後は、手洗い及び顔を十分にすすいで下さい。
  - ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
  - ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
  - ⑤廃塗料、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
  - ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
  - ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
  - ⑧中身を吸い取ってからの廃棄して下さい。
  - ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときは医師の診断を受けて下さい。
  - ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- 【その他】
- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
  - ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書をご確認下さい。
  - ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート(SDS)をご確認下さい。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。